

英語科・英語活動

英語科・英語活動 齋藤 一紀 原 雄規

研究協力者 津久井 貴之

1 英語科・英語活動における教科本質的な学びについて

目的や場面、状況等のある言語活動を通して、他者と考えや気持ちを分かり合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び

英語科・英語活動の本質的な意義の中核をなす見方・考え方は「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。この見方・考え方を踏まえ、英語科・英語活動の本質的な学びを「目的や場面、状況等のある言語活動を通して、他者と考えや気持ちを分かり合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感する学び」とした。

本校では、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成を目指している。「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには、英語科・英語活動の本質的な学びが欠かせない。なぜなら、他者と共によりよい生活を創造してくためには、他者と考えや気持ちを伝え合い、互いの考えや気持ちを分かり合いながら、よりよい関係を築いていくことが必要だからである。英語科・英語活動の学習では、考えや気持ちを伝え合う際に、日常生活では使用しない英語を用いる。不慣れな英語を用いるということで、子どもたちは課題意識や困り感を感じながら、言語活動に取り組む。その言語活動において、目的や場面、状況等に応じて、何とか自分の考えや気持ちを他者に伝えようとしたり、他者の考えや気持ちを分かろうと聞いたりすることを通して、分かり合えた際に喜びを感じ、コミュニケーションを図る楽しさを実感できる。このように、他者と考えや気持ちを分かり合おうと試行錯誤し、コミュニケーションを図る楽しさを実感した子どもたちは、実生活においても、他者と考えや気持ちを伝え合う際に、互いに分かり合えるコミュニケーションを図ろうと粘り強く取り組むことができ、共によりよく生きていくことができる生活を創造していくことにつながっていく。

2 研究の方向

英語科・英語活動の教科特性に着目すると、子どもたちは、不慣れな英語に繰り返し慣れ親しみながら、言語活動を通して、他者と考えや気持ちを分かり合い、コミュニケーションを図る楽しさを積み重ねていくことが多い。しかし、その過程で他者と分かり合えず楽しさを実感できない子どもたちは、自ら他者と関わろうとする意欲が薄れ、たとえ努力しても他者と考えや気持ちを分かり合うことはできないと考えるようになる。その結果、学びの中で自らの成長や達成感を感じる機会が減り、進んでコミュニケーションを図ろうとする思いをもてなくなる。このように、学びを主体的に捉えることができなくなると、他者と分かり合うために必要な事柄やコミュニケーションにおける自らの課題を見いだそうとする姿が見られなくなる。

しかし、英語科・英語活動の学びにおいて、子どもたちが「自信」を深めていければ、分かり合うために、自ら他者と関わろうとし、コミュニケーションを図るために必要な事柄や自らの課題を主体的に見いだすことができるようになる。また、他者の考えや気持ちを詳しく理解しようとしたり、自分の考えや気持ちをより分かりやすく伝えたりしようと工夫する姿が見られるようになる。そして、互いの考

えや気持ちを分かり合うことで、コミュニケーションを図る楽しさを実感することができる。

そこで、本研究では、子どもたちが英語科・英語活動の教科本質的な学びの中で、「自信を深める学び」を実現し、それを通して「共によりよい生活を創造する子ども」の育成につながると考え、研究を進めていくこととした。

3 研究内容

(1) 英語科・英語活動における「自信」

英語科・英語活動の教科本質的な学びにおける「自信」を以下の表のように捉えた。

自分ではできる	他者と考えや気持ちを分かり合い、他者とのコミュニケーションを楽しむことができる。
努力すればできる	他者の伝えようとしていることが分からない、自分の考えや気持ちがうまく伝わらないという課題があっても、繰り返し英語表現に慣れ親しんだり、あきらめずに伝え合おうとしたりすることで、他者と考えや気持ちを分かり合い、他者とコミュニケーションを楽しむことができる。
認められている	自分の考えや気持ちを分かろうとしてもらっている。

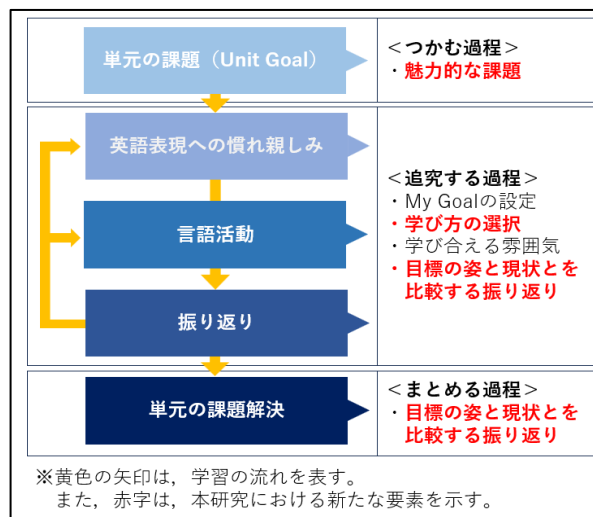
(2) 「自信」を深める学び

英語科・英語活動における「自信を深める学び」とは、他者と考えや気持ちを分かり合おうと取り組み、分かり合えた楽しさを積み重ねる学びである。この「自信を深める学び」を実現していくために、問題解決的な学習過程(図1)において、以下の要素が欠かせないと考えた。

まず、【つかむ】過程において、子どもたちの生活や社会と関連性が高く、自らの思いをもち、興味・関心をもって取り組むことができる魅力的な「単元の課題(以下、Unit Goal)」が欠かせない。なぜなら、子どもたち自身がUnit Goalと、自らを結びつけ、「伝えたい」「知りたい」という、他者と分かり合いたい思いをもつことで、学びを主体的に進めることができるからである。

次に、【追究する】過程において、Unit Goalの解決に向けて、子ども自身が自らの目標(以下、My Goal)を見だし、試行錯誤しながらMy Goalの達成を目指していくことが必要である。My Goalを見だし、達成していくことを通して、Unit Goalの解決に近づくことができる。そして、My Goalを達成していくためには、学び方を自ら選択・決定できることが欠かせない。なぜなら、自分の考えや気持ち、表現を安心して受け入れてもらえる雰囲気の中で、学び方を自ら選択し、決定することを通して、My Goalに近付いていることを実感することで、自らの力で目標を達成できたという達成感へとつながるからである。その際には、目標とする姿と現状との比較をしながら、学びが進んでいくと考えられる。

さらに、【まとめる過程】では、Unit Goalの解決に向けて自らの学び方と成長を確かめながら学びを進めるとともに、目標とする姿と現状との比較を行うことが欠かせない。Unit Goal解決後の姿と現状の姿の差を自覚し、差が小さくなっていることを自覚できれば、自らの努力や成長を実感し、「自信」へとつながる。



※黄色の矢印は、学習の流れを表す。
また、赤字は、本研究における新たな要素を示す。

＜図1 英語科・英語活動における学習過程と自信を深める要素＞

このような学びを繰り返していくことで、分かり合えた楽しさを積み重ね、「自信」を深めることができるようになる。

(3) 「自信」を深める学びに求められる子どもの様子

英語科・英語活動における「自信」を深める学びに求められる子どもの様子を、問題解決的な学習の過程に沿って表すと、次の表のようになる。

問題解決的な学習の過程	求められる子どもの様子
【つかむ】過程	<p>【Unit Goal を自分事として捉えている様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit Goal に対して、自分の生活や思いと関連付けながら、解決する方法や見通しについて、発言や記述をしている。 ・ My Goal を基に、自分に合った学び方を選択する発言や記述をしている。 ・ 単元の終末における Unit Goal 解決の自分の姿を想像し、自らの課題や My Goal について、発言や記述をしている。
【追究する】過程	<p>【学び方を選択している様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ My Goal 達成に向けて、進んで学び方を選択し、実行している。 <p>【分かり合おうとしている様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の考えや気持ちを分かろうと積極的に聞いたり、受け止めて反応したりしている。 ・ 間違ったり、つかえたりしても、あきらめずに粘り強く伝えようとしたり、自分の考えや気持ちを相手に伝えるように工夫して伝えたりしている。 <p>【成果を実感している様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学び方、成長や課題、次に取り組むことを振り返り、発言や記述をしている。 ・ コミュニケーションを図る楽しさを、実感している。
【まとめる】過程	<p>【分かり合おうとしている様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の考えや気持ちを分かろうと積極的に聞いたり、受け止めて、反応しようとしたりしている。 ・ 間違えたり、つかえたりしても、粘り強く伝えようとしたり、自分の考えや気持ちを相手に伝えるように工夫して伝えたりしている。 <p>【成果を実感している様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学び方、成長や課題、次に取り組むことを発言や記述をしている。 ・ コミュニケーションを図る楽しさを、実感している。 ・ 次の単元に向けて、自らの課題や意欲を具体的に発言・記述している。

(4) 学びのデザイン

① 「自信」を深める学びを実現する学びのデザイン

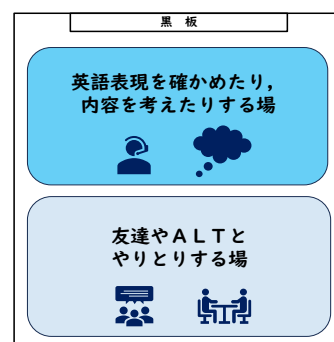
英語科・英語活動の「自信」を深める学びを実現するために、以下のデザインを構想した。

【自分事として取り組める目的・場面・状況の設定・「魅力的な課題」】

子どもたちが、課題解決に主体的に取り組めるような Unit Goal の設定が欠かせない。しかし、これまでの実践において、自分事として課題解決に取り組むことが難しいことがあった。そこで、【つかむ】過程において、子どもたちが、自分事として課題解決に取り組めるように、子どもたちの生活や社会との関連性が高かったり、自らの思いをもち、興味・関心をもって取り組んだりすることができる目的・場面・状況の設定を行う。その際に、子どもたちに親しみのあるもの、外部とのつながりをもてるもの、内部へ発信するもの、遊び心のあるもの、工夫の余地があるものといった要素を組み合わせながら設定することで、自分事として課題解決をし、「自分ができる」という「自信」を深めることにつながると考える。

【自らの学び方を選択できる機会の設定・「スタディ・ステーション」】

【追究する】過程において、自らの力で目標を達成できたという達成感を得ることが欠かせない。しかし、これまでは、教師が提示した学び方しかできておらず、自らの課題と学び方が一致していない状況があった。そこで、子どもたちの必要感や課題感に応じた My Goal を基にした学び方を自ら選択できるように、複数の学び方を提示する。子どもたちが学び方を選択・決定することを通して、My Goal に近付いていることを実感することで、自らの力で目標を達成できた達成感を得られるようにする。(図2) 学び方は大きく分けて、英語表現を確かめ、内容を考える学び方、友達やALTとやり取りする学び方といった2つが考えられる。そういった学び方を、子どもたちは、選択・決定を繰り返しながら、学びを進めていく。ただし、子どもの実態によって学び方や分け方は変更していく。



〈図2 スタディ・ステーションの案〉

子どもたちは、自ら選択・決定した学び方が My Goal の達成に結びついたという達成感や、相手に自分の考えや思いが伝わったり、一生懸命聞いてもらったりすることで分かり合い、コミュニケーションを図る楽しさを実感し、「努力すればできる」「認められている」という「自信」を深めることにつながると思う。

【My Goal 達成の度合いを客観的に振り返る機会の設定・「自己モニタリング」】

My Goal 達成に向けて自らの学び方と成長を確かめながら学びを進め、成長の自覚や達成感を得るためには、目標とする姿と現状との比較を行うことが欠かせない。しかし、自らの現状を客観的に捉えられていないという課題があった。そこで、自分の成長や達成感を自覚できるように、タブレット端末の録画機能を使って、自らが話している様子を録画・視聴し、学びの成果を振り返る機会を設定する。例えば、自らの英語表現を発表している姿を録画したものを視聴し(図3)、My Goal 達成に向けて、目標とする姿と現状との比較をし、自らの現状や成長について、振り返りシート等に記述する機会を設定する。また、振り返りをもとに、友達や教師からの感想や助言を得ることで、自らが気づきにくい成長について、自覚を深めることにつながると思う。ただし、機会の有無や回数は、子どもたちの実態、必要感に応じて、調整していく。そうして、「自分はできる」「努力すればできる」という「自信」を深めることにつながると思う。



〈図3 自己モニタリングをしている様子〉

② 「自信」を深める学びにおける教師の関わり

「自信」を深める学びでは、課題解決に向けて英語表現に慣れ親しむための学び方を選択する場や、自らを振り返る場面において、子どもたちは、成長や課題を感じながら、学びが進んでいくと考えられる。

そこで、「自信」を深める学びにおける教師の関わりを次の表のように想定した。

問題解決的な学習の過程	教師の関わり
【つかむ】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しがもてるように、課題解決の姿の模範例を提示する。 ・前単元の学びと本単元における共通点を問いかけたり、関連付けたりする。 ・Unit Goal を自分事として捉えられるように、思いや内容、英語表現について、子どもたちに問いかける。
【追究する】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・My Goal を自分の必要感・課題感に応じて設定できるように、振り返りを紹介したり、前回の課題について問いかけたりする。 ・学び方を適切に選択できるように、子どもがもつ課題と、学び方のよさについて問いかけたり、学び方の選択について助言したりする。 ・分かり合えた子ども、分かり合おうとしている子どもを紹介・称賛する。 ・目標とする姿と現状との比較を行えるように、振り返りの記述について、紹介したり、称賛したりする。
【まとめる】過程	<ul style="list-style-type: none"> ・分かり合えたことについて、よさや楽しさを子どもが自覚できるように、学び方と成長を関連付けて、称賛する。 ・目標とする姿と現状を比較できている振り返りの記述を紹介・称賛する。 ・コミュニケーションの楽しさを実感できるように、学び方と成果を関連付けて称賛する。

【具体例】 6年「My Best Memory」

【自分事として取り組める目的・場面・状況の設定・「魅力的な課題」】

つかむ過程では、「外部とのつながりをもてるもの」「工夫の余地があるもの」いった要素を取り入れ、中学校のALTケアン先生からのビデオメッセージを視聴し、“What is your best memory in your school life?”という質問を確認した。そして、「どんな英語の表現が必要だろうか」「どうやって回答するか」という問いかけから、「ALTのケアン先生に、附属小6年生の一番の思い出を伝えるために、ビデオレターを作ろう」というUnit Goalを立てた。



【自らの学び方を選択できる機会の設定・「スタディ・ステーション」】

【追究する】過程では、Unit Goalの解決に向けて、「タブレット内のモデル音声を聞いて英語表現を確かめる場」「自分の英語をタブレットに録画して確かめる場」「友達とやり取りする場」「ALTとやり取りする場」の4つの学び方を設定し、英語に慣れ親しんだり、言語活動を行ったりした。子どもたちは、場を移動して、学び方を選択しながら、My Goal達成へ向けて取り組んでいる様子が見られた。



【My Goal達成の度合いを客観的に振り返る機会の設定・「自己モニタリング」】

【追究する】過程の3時間目において、自らの発表の様子を動画に撮り、その動画を見てMy Goal達成の度合いを振り返った。「動画をとってみると、一人の発表なので、かわいい表情になっていました。ケアン先生に伝えるのはビデオなので、そこが自分の課題です」と自らの発表の様子を客観的に捉えられて、次への目標を捉えていた。

ふりかえり：

今日の練習では、友達との会話だけをしました。友達との会話は、くわしく伝えたり、相手からアクションをしてくれるので、楽しいです。ホテだけでも見た番組、友達のことなどと言いました。ですが、動画をとってみると、一人の発表なので、かわいい表情になっていました。ケアン先生に伝えるのはビデオなので、そこが自分の課題です。

4 成果と課題

本校英語科・英語活動における問題解決的な学習の中で、「共によりよい生活を創造する子ども」の育成に向けて、「自信」を深める学びのデザインについて研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

○成果

子どもたちは、「自信」を深めながら、自ら他者と関わろうとし、コミュニケーションを図るために必要な事柄や自らの課題を主体的に見出すことができるようになった。また、相手の言っていることを笑顔でうなずきながら聞いて理解しようとしたり、自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えたりしようと工夫する姿が以前より多く見られるようになり、コミュニケーションを図る楽しさを実感する様子が見られた。これは、自分事として取り組める目的・場面・状況の設定、自らの学び方を選択できる機会の設定、My Goal 達成の度合いを客観的に振り返る機会の設定したことで、自らの成長や達成感を感じる機会が増えたからだと考えられる。

○課題

自らの現状を客観的に捉え、自分の成長や達成感を自覚できるように、自らの目標の達成の度合いを客観的に振り返る機会を設定した。子どもたちは、自らの現状を客観的に捉え、自分の成長や達成感を自覚していた。一方で、「さらにこうしたい」「次は、こう頑張りたい」という振り返りの記述から、自己の課題を見付ける様子が多く見られることがあった。成果よりも、課題に着目する様子が多いことは、Unit Goal を解決した姿が明確であり、向上心が高まったよい姿だと考えられる。しかし、課題を強く自覚し過ぎると、自らの成長や達成感を自覚しにくくなってしまう。そこで、子どもたちが気付かない成長や努力を教師が称賛し、価値付けていくことで、より「自信」を深める学びを実現することにつながる。

【参考文献】

- ・西田理恵子（2022）「動機付け研究に基づく英語指導」大修館書店。
- ・廣守友人（2024）「エンゲージメントを促す英語授業」大修館書店。